

東京オリンピック・パラリンピックでの持続可能性に関する検討会
東京オリンピック・パラリンピック持続可能性テーマ（案）に対する意見の募集結果報告書

I. パブリックコメントの実施及び結果概要

- 公表及び意見の募集期間 平成 27 年 3 月 30 日（月）から同年 4 月 24 日（金）までの 28 日間

- 公表場所 CRT 日本委員会ホームページ、ウェブサーベイ

- 意見の数 有効回答数 59 件（国内 43：海外 16）

| | 回答数 | 無効回答 | 有効回答 |
|-----|-----|------|------|
| 日本語 | 59 | 16 | 43 |
| 英語 | 24 | 8 | 16 |
| 合計 | 83 | 24 | 59 |

- 意見者数
NGO・NPO 関連 8 件
大学関係者 14 件
業界団体 6 件
企業関係者 14 件
無所属（個人）17 件

- 意見の内容 別添 1, 2, 3 をご参照ください。

- 意見の提出方法の分類 直接 CRT へ提出
ウェブサーベイへの提出

II. パブリックコメントで提出された「東京オリンピック・パラリンピック持続可能性テーマ（案）」に対する重要性認識

| テーマ | 英語 | 日本語 | 合計 | 率 |
|--|----|-----|-----|-----|
| 1. 科学技術や知識の活用とイノベーションの創出 (Innovation) | 1 | 11 | 12 | 7% |
| 2. 安全で強靱な防災都市東京の構築 (Disaster, Resilience, Cybersecurity) | 5 | 15 | 20 | 11% |
| 3. 大会運営を通じた環境価値の最大化 (気候変動、エネルギー、水、生物多様性) | 10 | 17 | 27 | 15% |
| 4. 超高齢化社会への対応 (Demographic Change) | 0 | 9 | 9 | 5% |
| 5. 多様な文化や宗教、バックグラウンドを持つ人々との共生社会の創出し、労働・人権の問題に取り組む (Diversity, Inclusion) | 16 | 27 | 43 | 24% |
| 6. 障がいのある方など、すべての人に開かれた施設・インフラや情報、サービスの提供 (Accessibility) | 4 | 26 | 30 | 17% |
| 7. スポーツを通じた健康的な生活の提供 (Health through Sport) | 1 | 8 | 9 | 5% |
| 8. 東京オリンピック・パラリンピックにおける取り組みへの十分な説明と報告 (Accountability, Transparency) | 11 | 16 | 27 | 15% |
| 計 | 48 | 129 | 177 | |

Ⅲ. パブリックコメントで提出された「東京オリンピック・パラリンピック持続可能性テーマ(案)」に対するコメント

A) 8つの持続可能性テーマ(案)より、重要と考える3つのテーマを選択してください。また、重要と考える理由について、できる限り具体的に記載してください。さらに、追加すべき要素がありましたら記載してください。なお、各テーマの①～⑧は、順位づけ。

1. 科学技術や知識の活用とイノベーションの創出 ⑧

<重要と考える理由>

環境負荷の最小化、自然との共生をテーマに、この東京大会においてもロンドン大会を上回る形で、持続可能な発展を促進する技術的・知識的イノベーションを創出し、大会後の日本レガシーとして世界に日本の存在価値を高めていくことを期待する。

<追加要素>

CSR や CSV を追加して、社会全体を配慮した形で、共通項目に向かって産官学が連携して競争、協調、支援し合う。

2. 安全で強靱な防災都市東京の構築 ⑤

<重要と考える理由>

2011年の東日本大震災を教訓にした形で、環境資源の有効活用を前提とした安全対策を最重要事項として考え、世界に向けてどのような対策を講じていくのか明確なメッセージを発信し、信頼確保に務めることを期待する。

<追加要素>

防災都市を目指す東京は、日本の自然との調和と超近代都市としての防災機能を備えることを追記してもらいたい。

- ・避難路確保を目的とした交通網整備
- ・社会インフラ（電源、水、食糧確保など）
- ・多極依存型の東京大会開催
- ・東北復興と五輪の相互補完的な事業運営

3. 大会運営を通じた環境評価の最大化 ③

(気候変動、エネルギー、水、生物多様性)

<重要と考える理由>

東京大会では、地球環境への負荷を最小限に抑えるという環境優位性の取り組みを発揮されることで、消費者への意識を高めるだけではなく、「環境価値の最大化」を世界に向けて発信することを期待する。

<追加要素>

自然との調和を意識した日本独自の環境循環システムを世界に伝える再利用の施設

- ・東京大会終了後も持続的に活用できる施設の開発
- ・農畜水産物の食料調達（生産者から食卓）として持続的生産・流通の実現

4. 超高齢化社会への対応 ⑥

＜重要と考える理由＞

高齢者の智見を有効活用することで、世代を超えたコミュニケーションを図り、老若男女が共存できるモデル都市を実現することを期待する。

＜追加要素＞

日本の文化や歴史を伝える役目を担える場の構築

5. 多様な文化宗教、バックグラウンドを持つ人々との共生社会の創出し、労働・人権の問題に取り組む ①

＜重要と考える理由＞

日本は、外国人やマイノリティの人権への配慮が不十分であるため、この大会を機に、理解を深めて多様な人々の人権を尊重することを目的として、心のインフラとして「啓発・教育」、「法律や行政の仕組み整備」を整備していくことを期待する。

＜追加要素＞

移民労働問題の解決に向けた取り組み（劣悪な労働条件下の人権侵害）

性的少数者（LGBT）の権利を保障する（渋谷区同性婚容認、入院時同性パートナーの面会の許可）

6. 障がいのある方など、すべての人に開かれた施設・インフラや情報、サービスの提供 ②

＜重要と考える理由＞

ハードやソフト面でのユニバーサルシティ（普遍性）を実現するために、バリアフリーなどアクセスビリティを充実していくことを期待する。

一人ひとりが他人を思いやる気持ちを少し意識して持つことで、差別意識を軽減していくことが醸成できると期待する。

＜追加要素＞

女性、障がい者、高齢者、性的少数者については、共通のマインドセットとして「多様性社会の実現に向けた普遍性」を日本として重要視として持つことが必要不可欠である。

7. スポーツを通じた健康的な生活の提供 ⑥

＜重要と考える理由＞

身体的、精神的な健康を保持するように働きかけていくことで、スポーツが持つワクワクする高揚感を多くの人々に持たせ、生きる希望を与えていくことを期待する。

8. 東京オリンピック・パラリンピックにおける取り組みへの十分な説明と報告 ③

＜重要と考える理由＞

東京大会が持続可能性に富んだ取り組みをしていることを世界に伝え、信頼を得るためには、積極的な情報発信をすることを期待する。

<追加要素>

多様性と共存していくためには、偏りなく、また誤認なく情報を共有し、ステークホルダーとの対話を通じて、双方で理解を深めていくことが問題を解決に結びつけるための糸口である。

- ・ステークホルダーとのエンゲージメント
- ・苦情処理メカニズムを通じて、対話を重要視する

B) 8つの持続可能性テーマの他に、重要と考えるテーマがありましたら教えてください。

また、その理由について、できる限り具体的に記載して下さい。

・東京オリンピック・パラリンピックレガシーについて考える

開催後も持続可能な価値（ハードとソフト面）を持つことができるようになるべく早期に議論を開始する。その後の大会においてもモデルとして扱われるようにデータを保存することが重要である。

・次世代への育成

未来を担う次世代には、この東京大会で得た知見をきっかけにして、世界の平和に結びつけてグローバルに通用する次世代の人財を育成していくことも重要である。

・CSRスタンダード（調達コード）策定

食の安全と持続可能性の確保について、テーマとして設定すること。東京大会で提供する食べ物が多様性においても滞りなく“おもてなし”できる管理体制が機能できるように、食品調達のサプライチェーン全てに亘ってマネジメントできる体制を整備することを重要である。

・安全性の確保（テロ対策）

外国の方々の多様な文化価値を認めるだけの度量を持つことが重要であるが、万一安全性が確保できない事態に陥った際の検挙については、公平性に欠落することなく、対処することが重要である。

C) 本文書「東京オリンピック・パラリンピック持続可能性テーマ（案）」に対して、感じた

ことや思われたことについて、自由にご意見ください。

- ・緊急避難時の高齢者、障がい者などの方々へのケアは共通課題である。
- ・ジェンダーフリーの制服や採用活動を行うこと。
- ・労働者の項目を別だしにする。
- ・苦情や提案の受付窓口を常設する。
- ・この取り組みを知ることで、東京大会と持続可能性が結びつくことができた。
- ・意見を広く募集する手法は、とても重要で高く評価する一方で、今後この活動がどこまで実現しているのかモニターする仕組みや苦情処理の仕組みを構築することを期待する。
- ・東京大会は、労働者の雇用条件や人権面で高いスタンダードを設定することでこの分野におけるグローバルリーダーシップを発揮する機会がある。

IV. まとめ

この意見募集を通じて、東京大会と持続可能性の結びつきが極めて重要なことだと認識できたことや東京大会に対する期待や不安の声も多く寄せられた。特に 2012 年のロンドン大会を上回るレベルでの持続可能性に関する対応が東京大会では求められている。

この持続可能性テーマにおいては、多様性や労働人権に関する関心度合いが最も高く、次いで環境負荷の軽減と情報発信の強化であった。そして、これらのテーマに関して消費者や次世代への意識付けが必要不可欠であるとの声が多かった。

そして、以下の 5 つのテーマに絞り込むことにしたい。

- ・ 移民、内国民労働者を含む全ての労働における人権の尊重、公正・安全な労働条件の確保
- ・ 女性の活用、性的少数者や障がい者などの人権への配慮等を通じた多様性の尊重
- ・ 環境負荷の最小化を目指す
- ・ 透明性、説明責任の確保とステークホルダーとの対話・協働の重視
- ・ 消費者や次世代への意識向上に向けた取り組み

オリンピズムの目的である「人間の尊厳の保持に重きを置く平和な社会の奨励」を、東京大会において実現していくにあたっては、それを我が国が古くから有する固有の価値観と結びつけ、その具現化という形で実現していくことが、東京大会に携わる全ての人々の主体的な意識の醸成という意味においても重要と思われる。特に、日本の古来のアイデンティティでもある「寛容と協調性（和を以て貴しとなす）」という価値観を東京大会に携わる一人ひとりが、オリンピズムに資するものとして意識し、行動に移していけば、これから様々な価値観を持つ人々が来日し、グローバルの課題として認識されている様々な課題に直面することになったとしても、一人ひとりが見識を備えた人として柔軟に対応していくことができ、そうした対応が“おもてなし”としてグローバルに認識されることとなろう。つまり東京大会で関わる全ての人々に「機会の平等 (Equal Opportunity)」を提供するためには、法整備や仕組みを変えるだけではなく、上記のような、一人ひとりの自発的な意識（マインド）を呼び覚ますことが重要と考えられるのである。

奇しくも、上記の 5 つのテーマは、以下に見られるように日本の価値観としても昔から根付いているものとして違和感がなく、日本古来の価値観に沿って解決していくことが可能である。

- ・ 人権を尊重した社会を実現するための“共存共栄”（「三方良し」に表れる Win-win の精神）
- ・ 持続可能な社会を実現するための“循環システムの構築”（Mottainai に表れる尊重の精神）
- ・ 機会平等の社会を実現するための“調和”（「和を以て貴しとなす」に表れる寛容と協調性）

こうした日本での取り組みをいかにグローバルが意識しているテンプレートに向けて、彼らが理解できるように調整して、情報発信していくべきか問われている。

最後になるが、多くの方々から得た貴重なご意見を具現化していくためには、まず Commission for

Sustainable Tokyo (CST) を発足させ、以下の3つの活動を通じて、マルチステークホルダーに対して、上記5つの持続可能性テーマに焦点を当てたマインドが醸成されるようにつなげていくことが最も適確な対応だと考えている。

- ・ステークホルダーとのエンゲージメントプログラム
- ・苦情処理メカニズムの構築
- ・調達コードの策定

以上をもって、皆さまからいただいた貴重なご意見を「東京オリンピック・パラリンピック持続可能性に関する検討会」メンバーとの議論をした結果を反映させて、「東京オリンピック・パラリンピック持続可能性テーマ」に対する意見の募集結果の報告書として、公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会に提出する。

経済人コー円卓会議日本委員会

石田 寛